

知的財産管理技能士・活動報告

九州発・地方中堅企業在籍の知財技能士によるリアルな知財活動紹介

株式会社タカギ コーポレート企画部法務課 主査 大山 浩志

一級知財技能士（特許・ブランド）・AIPE認定知的財産アナリスト（特許）・知財技能士会交流委員会副委員長 兼 九州分科会幹事

令和2年度知財功労賞を受賞した株式会社タカギの歴史・取り組みと、同社に在籍する知財技能士によるリアルな知財活動を紹介します。

みなさんこんにちは。株式会社タカギ（以下、タカギ）の大山と申します。この度、IPジャーナル誌で執筆の機会を頂きましたので、私の地方における知財活動についてご紹介します。なお、掲載内容は私自身の見解であり、所属する企業や組織の立場および見解を表すものではありません。

【タカギの紹介】

タカギは福岡県北九州市が発祥の地であり、現在でも北九州に本社を構えています。「金型（受注ビジネス）」を事業の発祥として、「アイデア商品、散水用品（フロービジネス）」、「浄水器（ストックビジネス）」へと事業範囲を拡大し、売上・利益の安定が見込めるビジネスモデルに成長してきました。

メーカーになったきっかけは、オイルショックによって金型の発注がストップ、売上が激減して、和議申請（事実上の倒産）を余儀なくされたことです。その時、創業者は「新製品を作って、その売り上げで借金を返済する」と債権者に頭を下げて回っ

たそうです。そこでタカギの第一号製品「ポリカンポンプ」を開発、特許・実用新案・意匠を出願した後に販売開始しました。当時灯油ポンプが100円のところ、2000円でも飛ぶように売れたとのことでした。ポリカンポンプをはじめとするアイデア商品については特許・実用新案を出願するとともに、侵害疑義品に対しては訴訟を提起するなど、設立当時から知財を重視した企業活動を行っています。この「新製品は知財で守る」という創業者の強い意志が現在に至るまで根付いています。

また、創業者はとても勉強熱心で、50代で大学（法学部）卒業、60代で大学院修士課程（知的財産）修了、70代で大学院博士課程（経営法務）を修了しました。また、今年（82歳！）からは大学院博士課程（工学府）に入学しており、生涯学習を貫いています。その風土が全社に及び、従業員教育には大変熱心です。知財部門においても、東京・大阪でのセミナーでも必要あれば出張扱いで受講しています。

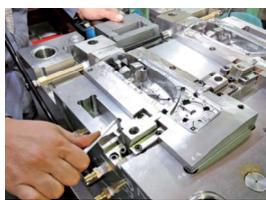
【タカギにおける知財活動】

タカギは一般消費者向け製品を販売するメーカーであるため、特許以外にも意匠、商標、不正競争と幅広い法域での業務対応が必要です。これらの調査、出願権利化、権利維持、侵害疑義品対応、教育など知財に係る一切の業務については、私を含めた3名で執り行っています。

新製品は知財で守るという方針のもと、侵害疑義品対応等の重要案件のみならず、通常の出願においても創業者の承認が必要であり、厳しい指摘を受けることもしばしばあります。

また、限られた予算の中で最大限の効果を生み出すために、「先行調査を徹底して行い、出願した特

金型



ポリカンポンプ



散水ノズル



蛇口一体型浄水器



許は必ず権利化する」の意思で取り組んでいます。

侵害疑義品に対しては、警告・訴訟に至ることもあります。私自身も知財配属2年目で訴訟活動に1年程度携わったことがあり、非常に大変な経験でしたが、その1年で大きく成長したと実感しました。

ところで、みなさんはタカギのTVCMをご覧になられたことはありますか？ CMの最後に流れる外国人独特のイントネーション「タカギ」については、音商標を取得（商標登録第6126587号）しています。

これらの知財業務を少人数で行うためには、当然ながら知財全般の幅広い知識が必要です。そのため、知財に配属された社員には、「1年以内の知財技能検定2級合格」を目標として課しています。私も含めてメンバー全員、目標を達成しました。これを、知財部門の風土にすべく、皆、さらなる挑戦をしています。

【活動の集大成：令和2年度知財功労賞受賞】

今年はとてもうれしいニュースがありました。タカギの知財活動が評価され、「令和2年度 知財功労賞 特許庁長官表彰 知財活用企業（特許）」を受賞しました。受賞ポイントは下記3点です。

- ①権利化の観点：知財ポートフォリオの構築および確実な権利化
- ②知財ミックスの観点：知財ミックスによる効果的な製品保護および音商標の取得
- ③権利活用の観点：侵害疑義品に対する厳格な対応
新型コロナウイルスの影響で表彰式が中止になったことはとても残念でしたが、この受賞を励みに、今後も各方面の方々からのご指導も仰ぎながら、知財を重視した事業活動を推進していきます。

【知財技能士会との関わり、交流委員就任、九州分科会の立ち上げ】

地方では、大都市に比較すると知財セミナーも少なく、最新の情報に触れる機会もそう多くはありません。そのため、日本知的財産協会や地元の研究会に参加するなど、外部からの情報を積極的に収集するとともに、2011年には知財技能士会に入会して、東京や大阪で開催される研修会や交流会に参加してきました。

この東京や大阪を中心とした活動をぜひとも九州にも伝えたいという思いから、2017年に交流委員に就任し、全体での交流会を企画するとともに、九州分科会の立ち上げに尽力しました。九州分科会は、私のほか2人の副幹事と協力しながら、これまでにプレ会合を含めて、北九州、福岡、熊本、大分、下関にて合計11回開催、延べ90名に参加頂いています。九州分科会の活動は懇親会が中心ですが、勉強会も2回開催しました。また、東京での交流会についても、2018年までは年2回程度の開催でしたが、2019年より「定期交流会」と題して奇数月第三水曜日を定例にして、参加しやすくしました。

現在は新型コロナウイルスの影響にてリアルな交流会・分科会活動はいったん中断しており、今後は、web等を活用した会合を検討中です。次回開催の際はぜひとも参加頂ければ幸いです。

九州分科会資料（表紙）



定期交流会（交流委員・事務局メンバー）



最後になりますが、これからも知財技能士会の交流会や九州分科会などでみなさまとお会いできれば、うれしいことこの上ありません。

企業ウェブサイト

<https://www.takagi.co.jp/>

知財功労賞ウェブサイト

https://www.jpo.go.jp/news/koho/tizai_koro/2020_tizai_kourou.html